

子どもの声

保護者の声

地域の声

12月のテーマ：「特別支援教育の充実」について

「子どもから」

卓球と僕

縄田 聖矢

「V3目指してがんばります！」

十月一日、学校の運動会の壮行式で、全校生徒、保護者の前で緊張しながら発表しました。僕は人の前で話をするのがとっても苦手だけど、大好きな卓球のことだからがんばりました。

これから、僕が卓球に夢中になっていることについて、インタビューしてもらったことを紹介します。

卓球と出会ったのはいつ？

「二つ上の兄が、団体戦で全国大会に出場したのを祖父も一緒に家族全員で応援に行ったときに、かっこいいなあと思いました。2位トーナメントで優勝したんです。僕が小学5年のときです。野球以外ではじめてやってみようと思ったスポーツです。」

お兄さんが目標？

「そうです。高等部1年生で

はじめて公式試合で戦いましたが、完敗でした。練習を続けていつかまた対戦したいと思っています。」

卓球の得意技は？

「サーブをバックハンドで回転をかけて、スマッシュをフォアハンドで決めることです。」

高等部に入ってから練習はいつしているの？

「中学校では部活動でほぼ毎日練習できていたけど、高等部では部活動がないので、近くの体育館で、水曜日の夜にいろいろな人たちとしています。学校では、体育や球技大会でも卓球の種目がなくてとても残念です。でも、時々休みに友達や先生と対戦することができるときはうれいんです。」

試合で悪い出に残っていることは？

「高等部2年生で出場した千葉大会の試合です。2試合したけど、どちらも1セットを取られた後から逆転で3セットを奪い返して勝ち、優勝できました。監督から、上を向いて笑えと言われたことを今でもよく覚えていています。」

これからの目標は？

「現場実習に行ったときに、

職場の人に卓球で全国大会に行くことを話して仲良くなれました。これからも、卓球をしていることに自信をもつて、卓球を通していろいろな人とふれあったり、いろいろなことにチャレンジしたりして、かっこいい人間になりたいです。」

(県立岡山南支援学校生徒)

「保護者の方から」

本を読むことの大切さ

栗林 澄子

野球が大好きで地元の少年野球チームでの厳しい練習に耐えながらも頑張っている我が家の長男は、現在小学5年生です。地元小学校に在籍しながら、月に二回は老松小の「きこえの教室」にお世話になっております。

生徒すぐの新生児聴覚スクリーニング検査で軽度の難聴とわかった時のショックと苦悩が、つい昨日のことのように思い出されます。私達夫婦も共に聴覚障害者なので、我が子だけは健聴者であってほしいと願っていました。その

ことで、涙したこともありました。

長男は大の大好きで、伝記や漫画などありとあらゆるものを、少しでも暇があるとすぐに読んでいます。気に入ったものは何回でも読むので、豊かな想像力、豊富な言語が身に付いて色々な事を教えてくれます。卒園した保育園がたまたま絵本の読み聞かせや読書に力を入れている所でしたので、赤ちゃんの時から自然と本に親しむようになったのが良かったのかもしれない。聴覚に障害があると、会話や色々な情報が全て耳に入るとは限らないために、どうしても会話力や文章力が伸びにくくなってしまうがちです。本を読むということがいかに大切かを、身をもって知らされた私の経験からも強く言えることなのだと思感しております。

「きこえの教室」でも、本好きの長男の長所を生かして、難しい俳句の暗記、難しい語句の意味調べ等々指導してくださっています。

家でも兄に負けじと、弟二人も本などを読んでいます。が、それでもわからないことはすぐに「お兄ちゃん、これ